CONTENTS

大阪消防 4

表紙：開幕を間近に控えた
万博会場の大屋根リング

01：コンテンツ／災害概況
02：特集　2025年 大阪・関西万博
～まもるぞ、万博！～
06：ケイボウタイムズ
10：明日に備えて過去に学ぶ
11：人材育成のヒント
12：【職務】令和７年度 消防局運営方針
14：共に学び共に成長
16：【職務】第72回　消防職員意見発表会
18：コマンドアイ
20：Just Do It !
22：実録!!調査鑑識
24：We are Rookies !
26：大阪の消防NEWS
28：淀橋広子の広報講座
30：落語DE火の用心
31：今月の推しの一枚／
救急安心センターおおさかだより
32：現場に活かす！救急救命士国家試験問題
33：自衛消防隊紹介／女性防火クラブだより
34：救急いろは
36：【職務】消火器の薬剤の詰め替え事業／
消防職員による「防火・防災診断」
38：消防漢字ガール
39：親睦会だより
40：アニマル環状線／編集後記

大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
2月中件数	1	1	17	40	59	2	0	0	5	66
令和7年 2月末累計	4	4	37	74	119	5	0	0	15	139
令和6年 2月末累計	2	2	27	69	100	11	0	1	8	120
累計比較	2	2	10	5	19	▲6	0	▲1	7	19

◎救急概況

	救急出場
2月中件数 （概数）	20,565
令和7年 2月末累計	45,114
令和6年 2月末累計	44,540
累計比較	574

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他
令和7年 2月末累計	803	234	0	228
令和6年 2月末累計	756	194	0	165
累計比較	47	40	0	63

いっしょに、いこな！ ＼2025年 大阪・関西万博／
～ まもるぞ、万博！ ～

みなさん、こんにちは！

長かった万博開催までのカウントダウンも残りわずか。ついに大阪・関西万博が４月13日に開幕します！

大阪市消防局は、万博開催に向けた様々な準備の一つとして、２月３日に大阪・関西万博消防センター（以下、「万博消防センター」という。）を会場内に設置し、万博会場内の安全・安心のために万全な体制を構築しました。

そこで、開幕直前となる今月号では、会場内の安全を守る万博消防センターの概要と、そこで勤務する職員が開幕までに受講した研修や実施した訓練などについて紹介します。

開催まであと９日です!! ※（令和７年４月４日現在）

人　員

勤務区分	人数	備考
隔日勤務	42名	1当務あたり14名勤務（8時～翌8時）
毎日勤務	6名	センター所長 ＋ 予防担当5名

※上記のほか、府内消防本部から実務研修生が勤務
・開催前から、予防担当として５～10名が勤務
・開催期間中は、警防担当として毎月２～３名が隔日で勤務

※ 令和７年２月３日　大阪・関西万博消防センター　運用開始時

配備車両

	消防車	救助車	救急車	指揮車	指揮車	高所活動車	予備車（消防車）
万博センター	1（EV）	1	1	1	1（EV）	1	1
詰所（移動配備）	1		最大３				

ＥＶポンプ消防自動車
（万博ＳＴ１）

高所活動車（ＭＶＦ21）
（万博ＬＴ21）

ＥＶ指揮車
（万博ＰＩ１）

いっしょに、いこな！ ＼2025年 大阪・関西万博／
～ まもるぞ、万博！ ～

大阪・関西万博消防対策研修

研修は、消防局で策定している大阪・関西万博での各種計画、予防業務、外国人対応等の講義や、株式会社モリタホールディングス（以下、「モリタＨＤ」という。）が保有している「モリタＡＴＩセンター」での協賛車両に関する講義など、大阪・関西万博に特化した内容で実施されました。

◆目的
万博開催に伴う当局の消防体制及び関係機関について理解を深めるとともに、職務遂行上必要な教育を行い、万博消防センターの円滑な運営を図ること。

◆実施日時
令和７年２月５日～14日

◆実施場所
・座学
大阪・関西万博消防センター
及び万博会場
・実動訓練
高度専門教育訓練センター
及びモリタＡＴＩセンター

◆対象者
大阪・関西万博消防センター職員

研修内容
○訓示
○万博の概要
○万博の消防防災体制
○万博の医療救護体制
○万博会場視察
○パビリオン等及び消防用設備等の概要
○自衛消防訓練指導要領
○火災の原因及び損害の調査
○消防水利
○出場計画・消防情報システム・通信体系
○各パビリオンに関する警防資料の作成要領
○大規模自然災害対応要領
○テロ災害対策
○救急活動時の感染防止・外国人対応
○救急活動要領
○集団災害活動要領（救急）
○車両・資器材取扱説明
○任務別研修
・はしご車操作員研修（Ｌ・ＭＶＦ）
・万博協賛車両習熟訓練

座学研修（大阪・関西万博消防センター）

万博会場内の警防活動に関する講義

大阪・関西万博消防センター所長による訓示

いっしょに、いこな！　＼2025年 大阪・関西万博／
～ まもるぞ、万博！ ～

いっしょに、いこな！　＼2025年 大阪・関西万博／
～ まもるぞ、万博！ ～

実動訓練（モリタＡＴＩセンター）

ＥＶポンプ車の説明

ＥＶ指揮車及びＤＸ指揮卓の操作訓練

遠隔操作可能なＥＶポンプ操作訓練

ＣＡＦＳ（圧縮空気泡消火装置）による放水訓練

ＤＸ指揮卓の説明

ＭＶＦの操作説明

実動訓練（高度専門教育訓練センター）

ＭＶＦの架梯訓練

火災想定訓練（負傷者対応）

ＭＶＦによる放水訓練

火災想定訓練（指揮本部）

座学研修では、万博会場内の消防体制や医療体制、またパビリオンの概要等について、消防局や博覧会協会の担当者から講義が行われました。参加した職員は普段とは違う万博特有の内容に真剣な眼差しで受講していました。

実動訓練では、モリタＨＤより協賛されている車両の諸元把握や機能の確認を行い、その後、万博会場内で火災が発生したという想定での実践的な訓練を行いました。

操作訓練や想定訓練を通じて、最新鋭の車両やシステムの性能を実感していました。

この研修により、２月までは別々の場所で勤務していた職員同士が、「まもるぞ、万博！」という強い思いを共有し、万博の安全・安心を守る消防隊として絆を強くしました。

おわりに

大阪・関西万博の開催までついに10日を切りました。

大阪市消防局では万博開幕に向け、会場の安全・安心を守るべく引き続き訓練を続けていきます。

今回は、万博消防センターで勤務する職員の研修や訓練などについてご紹介しました。

次号では、万博消防センターの施設や協賛車両の詳細をお届けする予定です。

ぜひ、お楽しみに。

大阪・関西万博の消防体制の紹介動画を作成しました。動画はこちらの二次元コードからご覧いただけます。

ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

第12回　消防救助艇「ゆめしま２号」の更新

（警防課〈消防装備〉）

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。
「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当による
「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、
警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

市内河川域における水難救助に特化し、要救助者を確実に救出する

最新鋭の消防救助艇

新「ゆめしま２号」の運用を開始しました！

はじめに

平成27年12月の運用開始以来、水難救助事案の災害で活躍してきた消防救助艇ゆめしま2号が、市民の方からのご寄附のお申し出により、新「ゆめしま2号（ＦＢ24）」として更新され、令和7年2月3日に運用を開始しました。

今回は、旧艇から新艇へと歴史をつなぐに至った「ゆめしま2号」の歩みを振り返るとともに、河川域における水難救助にさらに特化した新消防救助艇の特徴及び救助方法等についてご紹介します。

旧「ゆめしま2号」の歩み

旧「ゆめしま2号」は、水上消防署へ配備された後、市内北東部の淀川や大川などの河川域における水難救助体制の強化を目的として、平成29年4月1日に都島消防署桜ノ宮公園艇庫へ配備されました。以来、数々の水難救助事案で多くの尊い命を守り続け、「水の都おおさか」を守る主力の警防機械として活躍してきました。

大阪市内では、年間１００件以上の水難救事案が発生しており、市内北東部の河川域での消防救助艇の運用は、大阪市消防局にとって長年の課題でもありました。ゆめしまは、災害活動として大阪市域の水難救助事案に出場し、当局の水難救助体制の強化において、大きな戦力となりました。

また、ゆめしま2号は「なにわ淀川花火大会」や「天神祭」での警戒任務をはじめ、災害活動以外にも様々な場面で活躍しています。この他にも大阪市消防出初式に参加しており、大阪市民にとって身近な消防救助艇であると思われます。

消防救助艇　諸元等

船名	ゆめしま2号（FB24）
全長(m)	4.99
全幅(m)	2.10
全高(m)	1.50
総重量(t)	0.80
速力	23ノット（船外機80馬力）
定員(名)	8名
配置場所	都島消防署　桜ノ宮公園艇庫

新しくなった「ゆめしま2号」の主な仕様と特徴

新たに運用を開始した、新消防救助艇「ゆめしま2号」の主な特徴をまとめます。

①高強度かつ安定性の高い船体

従来のＦＲＰ素材に対して、5倍の衝撃吸収性能を有する高品質ポリエチレンを船体素材に使用し、浅瀬への乗揚げや水中障害物等との接触による破損を防ぐほか、空気層が二重構造になり、安全・安定した航行が可能になりました。

②乗船定員（８名）

乗船定員は8名となり、操船隊員に加えて潜水隊員が乗船した際にも、船内への要救助者の救助が可能となる十分な定員及び救助活動スペースを有しています。

③80馬力エンジン船外機

高性能・低燃費・静粛性・環境性能をより高いレベルで達成した高出力80馬力ガソリン船外機を搭載し、最高速度23ノットの他、使用頻度の高い低回転時における高性能制御・加速時及び積載重量を考慮したトルク重視のエンジンとなっています。

④ステンレスフレーム

消防救助艇の警光灯や電子サイレンアンプ・ライトなどを取り付ける折畳式フレームを搭載し、緊急航行や夜間航行を支援します。ステンレスフレームを低く抑えることで、水面高さ1・5ｍまで航行を可能とし、市内の河川航行時の課題である高さを解決。市内全ての橋脚航行が可能です。

⑤操船コンソール（右舷仕様）

操船コンソール位置を右舷仕様に変更することで、船内スペースを最大限確保し、当局が使用する全ての救助用担架を収容でき、要救助者の迅速な救助が可能になりました。

⑥救助に適した構造

左舷右舷を問わず、水面から船内への要救助者の救助が可能となる資器材（クレイドル）を搭載するほか、船首を開放することで救助用担架の直接取り込みを可能とし、状況に応じて複数の救助方法を選択できる仕様となっています。

⑤操船コンソール（右舷仕様）

⑦水中ソナー

最新鋭の水中ソナーを装備し、船体周辺の水中状況をモニターに可視化することで、水没車両の検索等が容易になり、障害物等を把握して安全を確保することができます。

⑧ラダー

両舷に脱着が可能となるラダーを搭載し、水中で活動した隊員が乗り込む際の負担軽減並びに入水時の安全を確保することができます。

習熟訓練について

操船訓練とともに、船首を開放できる構造などを活用した要救助者の救出訓練を実施しました。

訓練風景１：船首を開放し、救助用担架で救出準備を行っている状況

訓練風景３：要救助者を救助用担架に収容し、船内へ救出する状況

訓練風景２：船首を開放した状況

訓練風景４：水難救助用資器材（クレイドル）を活用して、救助活動を実施している状況

た。訓練では、水難救助隊と連携した水面からの要救助者の救出、クレイドルを活用した救助活動を行いました。

水難事案への出場について

都島消防署桜ノ宮公園艇庫に配備されている本艇は、被牽引車（トレーラー）に積載した状態で艇庫に格納されており、災害出場時には消防車両（PⅠ）で牽引したのちスロープから出艇する体制をとっています。なお、出場指令時には事故防止や迅速な出場を支援する任務として支援隊（消火隊１隊）が指令され、早期の出場体制確保に努めています。

牽引及び出艇の様子

おわりに

今回、更新された新「ゆめしま２号」は、旧艇で必要とされた機能を継承するほか、船体強度の向上及び機動性重視、救助に適した構造など市内河川域における水難救助に特化するとともに、当局の水難救助隊との連携活動に主眼を置いた仕様となっています。新「ゆめしま２号」が、さらなる水難救助体制の強化及び人命救助の一助となり、多くのかけがえのない命を救うべく活躍することを願ってやみません。

係留状況